

江古田小校長室便り 「温故創新」

H29 (2017)・1124 NO47

校長 伊波喜一

目を合わせ 声の響きに 耳澄まし 好不調の バロメーターか

人間の脳の容量はゴリラの3倍で、150人程度の集団で暮らすのに適しているという。インターネットやグローバリゼーションで世界は互いにつながっているといっても、まさか70億人全てを知るといふわけにはいかない。相手の表情が分かり、親しく話が出来関係が作れるのは、せいぜい150人が関の山であろう。より近い関係というならば、さらに少なくなるだろう。講演会やコンサートなら数千人～数万人単位での開催も可能だが、座談会やライブではそうはいかない。マイクなど使わず、肉声だけで伝えるとなると、より小規模にならざるを得ない。ある有名なロックシンガーが、その絶頂期に大会場でのコンサートをやめ、数十人しか入らない会場でのライブを始めた。それもアコースティックギター一本での引き語りだ。そのシンガー曰く「俺のロックの原点は、ライブだ。だから、またライブに戻ったのさ」と。ライブは、歌手の思いと聴き手の反応が直に伝わる。どんなに距離や空間から自由であっても、ヒトには程よい数や空間があることを、改めて思う。